



北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和6年5月31日

三条生躍動！三柏戦・高体連支部大会に全力で臨む



◆三柏戦12連覇 運動部交流戦で圧倒！

4月26日、よつばアリーナにて、第65回三柏戦を開催しました。伝統の応援合戦は、三条高校・柏葉高校の順で実施。三条はいつもの応援歌で団結力を示しましたが、柏葉高校も負けじと声を合わせて柏葉歌を熱唱。ボルテージはますます上がる一方。そうして始まった一般交流戦でしたが、蓋を開けると柏葉の圧勝で終了。暗雲立ちこめる中での午後からの運動部交流戦で、見事逆転。通算成績も「30勝28敗4分3中止3開催せず」となりました。生徒会長の川原良佳さんは「私の代で連覇がとぎれなくてよかった～」と言って安堵の表情を浮かべていました。



◆インターハイ目指して高体連地区大会終了

3年生にとって最後の高体連が行われました。本校はバドミントンの当番校として大会運営にあたりましたが、滞りなく終了し、その責任を果たすことができました。運営にあたった先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました。当番校業務をしていると身に沁みてわかることは、本当に多くの方々の協力をいただいて大会が実施できているのだということです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。さて、全道大会出場を決めたのは次の部です。インターハイ目指して頑張ってください！

- ・男子テニス(団・個2)
- ・女子卓球(個1)
- ・女子バドミントン(個1)
- ・女子ソフトテニス(団・個3)
- ・陸上(男女 400mリレー 1600リレー 他個)
- ・男子アーチェリー(団・個11)
- ・男子柔道(個1)
- ・男子卓球(団・個5)
- ・ハンドボール 男・女
- ・男子バスケットボール
- ・ソフトボール
- ・女子アーチェリー(団・個4)

教育実習終了 ～ 実習生からのメッセージ

◆植原 杏羽 (理科：帯畜大)

今、目の前にあることに全力で取り組むことが、きっと皆さんの力になると思います。あっという間の3年間、失敗を恐れず少しでもやってみたくと思ったことはチャレンジしてみてください。皆さんの爽やかな挨拶と笑顔に元気づけられた2週間でした！短い間でしたがありがとうございました。

◆五島侑采玖 (公民：佛教大)

約3週間、素敵なお時間をありがとうございました。高校生の皆さんは、この先数えきれないほどの重要な選択を重ねていられることと思います。私からお伝えしたいのは、どうか自分の心に蓋をせず、思うままに動いてほしいということです。今日が1番若いのですから、「間に合わない」「無理かも」なんて思う必要はありません。自分の気持ちを大切に、貴重な高校生活を謳歌してください…！

◆田原 愛華 (英語：関西外大)

私が皆さんにお伝えしたいのは、今を全力で楽しんでくださいということです。大学に進むと生徒や先生の数が増え、生徒同士や先生との関係が希薄になりがちです。高校生活の中で、仲間や先生との深い絆を築く時間を大切に、ぜひこの3年間で忘れられない思い出を作ってください！

◆武藤 遥香 (美術：札幌大谷大)

三条生のみなさん、3週間大変お世話になりました。SHRや美術の授業で顔を合わせたみなさんも、廊下で元気に挨拶してくれたみなさんも、控室へ会いに来てくれたみなさんも、本当にありがとうございました。

高校生活もその後の日々もあっという間に過ぎていくと思います。悔いの残らないよう好きなことに好きなだけ挑戦してみてください！

◆六笠 杏菜 (音楽：札幌大谷大)

3週間、楽しい時間をありがとうございました！高校は、色々なことに挑戦できる場所です。皆さんには、勉強、部活、行事、遊びなど、高校でしかできないことたくさん取り組んでみてほしいです。三条にはその挑戦を応援し支えてくれる仲間や先生方がいます。毎日を大切に、最高の思い出を作ってください。皆さんの高校生活が素敵なものになることを願っています。



トビタテ！留学JAPAN 菅原うみさん代表に選出される

産官学協働のもと社会総掛かりで取り組む留学促進キャンペーン『トビタテ！留学JAPAN』第9期生に2年3組の菅原うみさんが選ばれました。



菅原さんが応募したのはスポーツ・芸術探究コース。サッカー部での体験がきっかけで、身体もメンタルもケアできるスポーツドクターを目指しているのですが、「ケガによるマイナスメンタルへの対応方法」を探究テーマとして設定し、さらに自ら高校生を受け入れてくれる専門機関を調べ探究計画を作成。メンタルと怪我との相関関係を調べるためのアンケート実施や、ドクターやトレーナーへのインタビューなどを通して日本とアメリカとの違いに迫りたいとする内容で、それが評価されて、厳しい選考を通過したのです。留学期間は11月から1月までですが、それまでに東京での研修も予定されています。早速6月8日には東京・文部科学省での壮行会が開催されますが、菅原さんは第9期生スポーツ・芸術探究コースの代表として決意表明をすることになっています。

自ら課題設定をし、その解決方法を考え、行動に移すという探究学習のサイクルを海外で体験しようとする菅原さん、頑張ってください！





第37回 2年次副主任・3組担任 小林あかね 教諭

『光る君へ』で古典にふれてみませんか？

◆大河ドラマ「光る君へ」

みなさんはNHK大河ドラマ「光る君へ」を見ていますか。『源氏物語』の作者である紫式部の生涯を描いたものですが、藤原道長への思いを秘めながら、変わりゆく世を懸命に生きていくというドラマです。豪華絢爛な平安文化が再現されていて、衣装やセットなどを見るだけでもワクワクしてしまいます。古典を教える身としては、生徒たちみんなに見てほしいドラマです。

実際に高校生が学ぶ有名な場面が出てきます。『大鏡』「花山院の出家」のシーンでは、藤原道兼に騙されて出家する帝の様子がリアルに描かれます。騙す道兼も必死、出家を躊躇する帝を嘔吐までして出家をせき立てます。ドラマでは道兼は父親である兼家から虐待を受けていると嘘をついて同情を買っていました。帝が出家したとたんその場を去る道兼の変わり身の早さに帝は愕然とするのですが、時既に遅し。陰謀の渦巻く社会で翻弄される人の姿と感情の揺れ動く様は中古の人間も現代に生きる私たちも同じです。古典を読む醍醐味はそんなところにもあるのかもしれない。

また、清少納言の『枕草子』が誕生することになった場面もまた涙が出てくるほど素晴らしいものでした。清少納言が仕えた中宮定子の幸せな日々は長くは続きません。兄である藤原伊周の短慮な行動から一条天皇の怒りを買って、定子も出家を余儀なくされます。それでも一人仕えようとする清少納言。定子の孤独を慰めようと文章を書いてそっと置くのです。それが『枕草子』であった、というのがこのドラマでの解釈でした。美しい筆文字で書かれた「春はあけぼの…」には桜の花びら、「夏は夜…」には蛍、「秋は夕暮れ…」には紅葉という具合に季節の移ろいに合わせて美しい映像が流れます。冬はつとめて（早朝）なのですが、そこには書は映されません。ただ清少納言が炭櫃を持って中宮のもとに行く映像が流れます。「いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いとつきづきし」と『枕草子』には

あるわけですから、それを知っているとその場面の意味がよくわかります。そしてその後に中宮が「春はあけぼの」を読み上げるのです。私の中学生の息子もつい口ずさんだように、日本全国のどれだけの人がともに口ずさんだことでしょうか。古典の暗唱もやはり意味のあるものだと思つた次第です。

◆古典との出会い

私が古典を好きになったのは、中学の『竹取物語』の授業でした。先生が教科書には載っていないけれどと言って、竹取物語の最後の場面を話してくれたのです。かぐや姫からもらった不死の薬を、翁と媪は姫がないこの世に生きながらえてどうするといった、姫が帰った月に一番近いところで薬を燃やすように頼みます。そうするとその山からは薬を燃やす煙が今もずっと立ち上っている。それが富士山である、という話です。先生は、「ここからその当時は富士山から噴煙が立ち上っていたことがわかるよね」と言ったのですが、その瞬間、古典の世界は現実の世界とつながっているのだという実感が湧いたのです。

北海道に住んでいると、どうしても古典の世界や歴史の話が実感としてつかめないのですが、本州に行く和生活の中に歴史や文化が根付いていることがわかります。2年次生は今年、修学旅行に行きます。古典の世界や歴史を学び、決してそれは本の中にだけにあるものではなく、今とつながっている現実のものだという実感を得てほしいと願います。それが私たちの日本人としてのアイデンティティにつながるのではないかと思います。そのきっかけが授業であれば嬉しいですが、そうでなくても、漫画でもドラマでもなんでもいいと思います。「光る君へ」を見て古典の世界に入ってみませんか？



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビューは校長です。

インタビュー

きらり

全十勝高体連ソフトテニス女子個人戦優勝ペア

3年5組 齋藤 陽色 さん 2年3組 前多 妃南 さん



5月16日に行われた高体連ソフトテニス大会女子個人で見事優勝を飾った3年5組齋藤陽色さんと2年3組前多妃南さんのお二人にお話を伺いました。

まず、優勝の喜びを語ってもらおうと「気付いたら優勝

していました」（齋藤さん）、「後悔しないよう自分たちのテニスをしようとしていたらしい結果につながりました」（前多さん）と笑顔で話してくれました。実は昨年の新人戦で優勝したものの、今年度の春季大会で2位、続く選抜大会では初戦で敗退し、第1シードの座から転落。しかし、そこからがこのペアの真骨頂。齋藤さんは「ここで負けてよかったと思えるようにしようと気持ちを切り替えていました」と言い、前多さんも「今、大きなショックがないと自分たちは変われないと思っていたので、いいタイミングでした」と敗戦を前向きにとらえていました。そして、この優勝

は「お互い切磋琢磨してきたチームメイトがいたからこそこの優勝です。先輩・後輩を超えて尊敬できる仲間でした。先生方、コーチに感謝です」と齋藤さんが言えば、前多さんも「本当にみんなで勝ち取った優勝です」ときっぱりと言った後に、「わたしにとっては齋藤さんのご両親からの声援がとても力になりました」とにっこり。

全道大会での目標を尋ねると、「チーム全体で楽しみたいです」という齋藤さん。前多さんは「3年の先輩方と一緒にの大会は最後なので後悔ないように全力で頑張ります」と力強く語ってくれました。

ソフトテニスの魅力は「パワー一辺倒だけではなく、技術を追求していくことがおもしろいです」と前多さん。それを受けて齋藤さんも「本当に何が起るかわからないスポーツです」と頷きます。

最後に齋藤さんに部活動も含めて今までの高校生活を振り返ってもらおうと、「みんなとずっと練習して毎日が楽しかったし、部活動ですること心身共にリフレッシュできて、辛いこととかも乗り切れたように思います。色んな面で成長できました。ソフトテニス部は人間関係もとっても良くて充実した高校生活を送れます！」と笑顔で話してくれました。

全道大会はチーム一丸で頑張ってください！